

第5学年 国語

第5学年の学習到達目標

- (1) 目的や意図に応じ、考えた事や伝えたい事などを的確に話すことや相手の意図をつかみながら聞くことができるようにするとともに、計画的に話し合おうとする態度を育てる。
- (2) 目的や意図に応じ、考えた事などを筋道を立てて文章に書くことができるようにするとともに、効果的に表現しようとする態度を育てる。
- (3) 目的に応じ、内容や要旨を把握しながら読むことができるようにするとともに、読書を通して考えを広げたり深めたりしようとする態度を育てる。

第5学年の主な学習内容

学期	単元名	学習のねらい	学習内容
前期	一 表現のくふうを考えながら声に出して読もう だいじょうぶだいじょうぶ 水のこころ 山頂から	表現の工夫を味わったり情景や心情を想像したりしながら、音読の工夫をする。	表現の工夫や言葉のリズムを味わいながら声に出して読む。[声の調子と声の高低]
	言葉の種類に気をつけよう/ 言葉の広場	名詞、動詞、形容詞、形容動詞の違いを理解し、文の中で適切に使う。	名詞・動詞・形容詞・形容動詞
	二 自分の考えを伝えるスピーチをしよう 伝え合おう、五年生でがんばりたいこと	自分の思いや考えを聞き手に分かりやすく伝える工夫をして話す。	組み立てを工夫して自分の考えをスピーチする。
	質問の手紙を書こう	聞きたいことを整理して、目的や意図に応じて効果的に質問の手紙を書く。	内容を整理して、質問の手紙を書く。
	国語辞典を活用しよう/ 言葉の広場	国語辞典の仕組みや使い方を理解する。	国語辞典の活用(多義語、同音・同訓の語の使い分け)
	三 文章の仕組みを考えながら読もう 動物の体	文章の仕組みをとらえ、書かれていることを読み取る。	文章の仕組みを考えて、要旨をとらえて読む。
	会話をはずませよう	相手の話の意図を考えながら聞き、内容が深まるような会話をする。	意図を正しく伝え合うために、会話するときに気をつけることを知る。
	漢字の由来に関心を持とう/ 言葉の広場	漢字の由来について知り、四つの漢字の成り立ちを理解する。	形象、指事、会意、形声
	四 強く心に残ったことを考えながら読もう ちかい	出来事や人物の心情に注意して物語の流れをとらえ、最も強く心に残ったことを自分の言葉でまとめる。	出来事や心情に注意して読み、最も心に残ったことをまとめる。 テーマに沿った本を選んで読む。[読書]
	相手や目的を考えて	相手や目的に応じて必要な事柄を整理して書く。	相手や目的に応じて、必要な事柄を整理して書く。
5 話の組み立てをくふうして ニュースを伝え合おう	取材したことや考えたことがはっきり伝わるように組み立てを工夫して話したり、相手の話の内容を正確にとらえたりする。	語の組み立てや話し方を工夫して、身近な話題をニュースにして伝える。	
方言と共通語に関心を持とう/ 言葉の広場	方言と共通語に関心を持ち、それぞれの良さを理解する。	方言と共通語	
後期	一 人間の生き方をえがいた作品を読もう マザー・テレサ	伝記から人物の生き方や考え方を読み取るとともに、それに対する自分の考えをまとめて紹介し合う。	人物の業績や出来事を読み取り、その考えや生き方について考える。 さまざまな伝記を読んで紹介する。 [読書]
	一まいの地図から	絵地図をもとに、情景や心情、会話などを想像して物語を書く。	絵地図をもとに想像したことを物語に書く。
	二 いろいろな環境問題について調べよう 森林のおくりもの	題名や述べ方の工夫に注意して筆者の考えを読み取り、環境問題について関心を持つ。	題名や述べ方の工夫に注意して、筆者の考えを読み取る。 図書資料を探して知りたいことについて調べる。
	敬語を適切に使おう	敬語の種類や役割を知り、適切な使い方を理解する。	敬語
	三 さまざまな角度から考えて書こう 考えをまとめて書こう	いろいろな通信手段の良さや問題点について自分の考えを整理し、筋道を立てて文章を書く。	自分の考えを整理し、筋道を立てて意見文を書く。
	動詞にそえて使う言葉に目を向けよう/ 言葉の広場	いろいろな補助動詞があることを知り、それぞれの働きや意味を理解する。	補助動詞

後期	四 身近な生活について討論しよう インスタント食品とわたしたちの生活	文章の組み立てに注意して筆者の考えを読み取り、身近な生活の中の問題について理由や根拠を明確にして討論する。	身近な問題を取り上げてディベートをする。
	短歌と俳句を味わおう	短歌や俳句の形式を知り、季節感を表した表現を読み味わう。	短歌や俳句を、情景や心情に注意して読み味わう。
	五 表現のおもしろさを考えよう 注文の多い料理店	表現の工夫や人物の心情の変化に注意して物語を読み、最も強く心に残ったことを紹介し合う。	物語の表現の工夫や人物の心情の変化について考えながら読む。命を題材にした物語を読む。[読書]
	熟語の意味を考えよう/言葉の広場	二字熟語について、語の構成から意味を推測することができることを知り、その方法を理解する。	二字熟語の構成
	六 題材や表現に注意して昔話をしょうかいしよう	いろいろな昔話を読み、昔話について調べたり「語り」を工夫したりして昔話に親しむ。	昔話について調べたことを書いたり、「語り」の台本を書いたりする。

評価の観点・方法

<p>(1) 評価の観点 それぞれ学習を進める中や学習後に評価します。</p> <p>【国語への関心・意欲・態度】 国語に対する関心を持ち、計画的に話し合ったり、適切に書いたり、幅広く読書したりしようとしている。</p> <p>【話す・聞く能力】 目的や意図に応じ、考えた事や伝えたいことなどを的確に話したり、相手の意図を考えながら聞いたりしている。</p> <p>【書く能力】 目的や意図に応じ、考えた事などを筋道を立てて文章を書いている。</p> <p>【読む能力】 目的に応じ、内容や要旨を把握しながら読んでいる。</p> <p>【言語についての知識・理解・技能】 音声、文字、語句、文や文章、言葉遣いなどの国語についての基礎的な事項について正確に理解している。</p>	<p>(2) 評価の方法 児童が身につけた知識や理解・技能だけでなく、児童の学習意欲や思考力・判断力・表現力などの観点も大切に評価します。</p> <p>ペーパーテストだけでなく、日常の学習の様子、発表、ノート、作文、メモや発表原稿、朗読、読書の様子など様々な面から多面的に評価します。</p> <p>学習の進行中に表れる児童の疑問や思いをその都度評価し、次の指導に生かします。</p> <p>学習の仕方や理解の程度など、自分自身の内面の変容について児童が自己評価したものや、相互評価したものも参考にします。</p>
--	--

特色ある学習方法

<p>(1) 基礎学力の定着 話す・聞く・書く・読むなどの基礎的な力を身につけるために、繰り返しの学習を大切にしていきます。</p> <p>(2) 「伝え合う力」の育成 相手や目的、場面や状況に応じたさまざまな形態の学習（朗読発表会・意見発表会・読書発表会・ニュース発表会など）を設定し、伝え合う能力を高めていきます。</p> <p>(3) 主体的な学習活動 主体的に学習に取り組もうとする態度を育てるために、興味・関心をもった事柄や課題について、さまざまな方法で情報を集めて、それを整理し、分かりやすく説明したりまとめたりという活動を設定しています。課題設定のための話し合いをしっかりと課題を明確にし、個別で取り組んだり、グループで協力して学習を進めたりします。課題別の学習の最後には必ず交流の時間を設け、お互いのよい点を学び合います。</p>

使用教材等

<p>教科書 「新しい国語 5年」(東京書籍)、漢字ドリル</p> <p>読書への関心を高め、自分の考えをより広げたり深めたりできるように、教科書教材と関連付け、同じ作者の作品や類似のテーマの作品を紹介し活用します。また、情報収集の一つとして、図書館の活用方法も学習します。</p> <p>話し方や資料の見せ方などの表現方法を工夫させるためにも、自分の話している様子を録音・録画し振り返らせる場をもちます。</p>

留意事項

<p>(1) 教科書を繰り返して音読することや、図書館などを利用して、できるだけたくさん本を習慣づけて読むことが「読む力」をつけていくことにつながります。音読の課題のあるときは、聞いてあげてください。</p> <p>(2) 身の回りの出来事や、テレビ・新聞から得た情報から自分の考えをまとめて話すという学習があります。家族でいろいろな話題について話し合う機会を持つと、自分の考えを話したり、他の人の意見を聞いたりして考えを深めていくきっかけになると思います。</p> <p>(3) 漢字練習の後には確かめをし、自分のまちがいに気付き、きちんと直すことで確実に力が定着します。</p>
